

「神は私の助け 私を救い出す方」

詩篇 70 篇 (宣教要旨)

説教者 A.Na.

現在、目に見えないウイルスにより、心疲れ、色々な情報に左右され、何を頼りにすればよいか分からず、今ある苦しみの方にばかり目を向けてしまいそうになる毎日です。この 70 篇は救いを求める個人の祈りであり、冒頭から最後まで、『願い』で構成されています。今みことばを聴く私たち自身、現状の悲惨な状態だけを見て、絶望し嘆くのではなく、今与えられている恵みに目を留めつつ、私たちの救い主である主に期待し、祈りましょう。

〈1節・・・神よ、主よ、と求めて祈る〉

私たちは苦しみや困難に向き合う時、すぐに神を求めますでしょうか。神よ、助けてください、と。ダビデの生涯は苦しみが多くあり、王になる前も王になってからも裏切りや人間の感情の渦巻く中で緊迫性をもって祈らねばならない状況が沢山ありました。私たちの歩みの中にも、緊急性、緊迫性のある、今すぐに助けてほしい、と願わずにはいられない時があります。そのような自分ではどうしようもない状況、逃げられない、かといって立ち向かうこともできないくらい、苦しみや絶望を感じるその時、私たち信仰者の信仰が試されるのではないのでしょうか。すべての造り主である神しか頼れる方はいない、と神を仰ぎ見ることに導かれます。

〈2、3節・・・神の正しいさばきを待ち望み祈る〉

ダビデは更に緊迫した状況へと追いやられます。ダビデの人生の中で、彼のいのちを求めて、彼を殺そうとする者が何度も現れました。しかし、自分で何か復讐をするのではなく、ダビデは神に信頼し、神が正しくさばかれることを待ち望み、御手に委ねました。この詩篇 70 篇でも、いのちを求め、わざわざ喜び、「あはは」とあざ笑う者たちに対して、自分で復讐するのではなく、彼ら自身の罪が人々に露呈し、神の報いがあることを願っています。3節のこの「あはは」とあざ笑う姿、軽蔑の表現(35:25、40:15にも出てくる)、そして嘲りに満ちたこの言葉は、マルコ 15:29 にある、十字架上のイエス・キリストに向かって、周りの者たちが頭を振りながらのしる言葉を思い起こさせます。そのような嘲りや苦難にあっても、ダビデは主への賛美へと導かれていきます。

〈4節・・・神を慕い、神に救われ、神の救いを愛する者たちのために祈る〉

ここでダビデは自分だけでなく信仰者たちについて祈っています。また、神ご自身が私たちに近づいてくださり、私たちを救ってくださる神に「あなた」と親しく呼びかけて祈ることができる幸いも覚えます。彼は、「神が与えてくださるすべての良きものを受け、神にあつて喜び楽しむことができるように」また、「神が救い出してくださった喜びや幸いの中、神に救われ愛されている私たち信仰者が、神の救いを愛すること」を祈ります。神がどんなに大きなことをしてく下さり、また偉大な方であるか、いつもいつもほめたたえ、また口ずさむ者でありますようにと願います。ダビデが願い祈っているように、私たち自身も互いに、いつもそうでありますように。

〈5節・・・神への信仰告白、唯一の救い主なる神に信頼して祈る〉

ダビデは、「私は苦しむ者 貧しい者」と告白します。神に抛り頼まなければ何もできないという信仰の表れであり、自分自身が取るに足らない小さな者であることを自覚しています。そこで、神を切に求め、「あなた」と親しく呼びつつ、私の助けであり、私を救い出せる唯一の方である、ということ告白します。ただただ神のみわざによって救われた者として、その偉大な救い主である神にのみ希望を置いて祈るダビデの姿がここにあります。

〈今、神は私たちに何を求めておられるか・・・神に信頼し祈りつつ、私たちの救い主をほめたたえる〉

現代を生きる私たちも、苦難に思うその時、「神よ、私は苦しんでいます。」と神に叫び、「自分は無力で、あなたの助けや恵み、そしてあわれみなくしては何もできません。あなたは私の助けであり、私を救い出してく下さる唯一のお方です。」と自分の信仰を告白し、すべてを創造され、今もすべてを治めておられる神をほめたたえましょう。

神は私たちの祈りや訴えを必ず聞いてくださるお方です。また、神は決して遅れる方ではなく、私たちに良いものを既に用意して下さっています。苦境の時も、涙し心乱れ絶望を感じる時も、唯一の私たちの救い主である神に信頼し、神のさばき、神のみわざを待ち望みつつ、神をほめたたえて歩んでいきたい、と願わされます。